



7月の虫送りってどういうことなの

イネにつく虫を追いはらい、豊作を願った

虫送りというのは、イネの生育に害をあたえるイナゴなどの害虫を、鉦（円盤状をした金属製の打楽器）やたいこではやしたてて追いはらい、豊作をいのる行事をいいます。毎年、7月ごろに行われました。

昔は、イネのさいばい技術や農薬などが発達していなかったので、強風や日照りや害虫の発生などのために、農業は強い影響を受けました。強風や日照りは、人間の力ではどうすることもできないので、神様にいのるしか方法がありませんでした。

イネにつく虫を村から追い出し、川に流した

しかし、害虫を追いはらうことは、努力をすればなんとかかなるかもしれないと考え、サンショウやザクロなどの植物を焼き、そのけむりで害虫を追い出そうとしました。この方法で、本当に害虫を追い出すことができたかどうかはわかりませんが、農家の人たちに安心感をあたえたのです。

農家の人たちは、けむりをたてたり、たいまつをともしたり、わら人形をかついだりして、鉦やたいこをたたき、はやしながら、害虫を村の境まで送って行って、村の外に追いやったのです。

この行事のやり方は、地域によって、少しずつちがいますが、短冊を、虫の悪霊がつきやすいといわれるササの葉に結びつけ、それを川に流して、虫よけをいのったところもあります。

虫送りは、かつてどこの農村でも行われていた行事でしたが、今では、あまり行われなくなりました。（監修・田代 脩）

